

「桐朋春愁山」

3年〇組 T. T.

早速だが、あなたは高尾山と聞いて、どんな印象を受けるだろうか？「え？高尾山？あの近くて楽な山でしょ？」と思う人も多いかもしれない。僕も最初はそう思っていた。しかしそれは高尾山の表向きの姿であって、本当の高尾山はそんなものではない。僕たちは本当の高尾山を、身をもって体験してきた。裏高尾だけに。

……という訳だが、実際は、中一や中二の時に登った山に比べて、そこまで大変ではないと思う。事実、急激なアップダウンもなく、比較的登りやすかった。しかし、侮る無かれ。歩いて歩いても一向に出口に着かない。狭い意味での「高尾山」の頂上は、全体の五分の一ほどで、その後も山々が続々と姿を現す訳だ。しかし、まわりの景色は変化に富んでいるので、よほど短気な方では無い限り、飽きることは無いと思われる。逆に言うと、飽きたら短気ということである。しかし、多分つらさ云々というより、つらさも忘れるほど景色がきれいだと思う。ご存じの通り、先日、あのミシュランで三つ星を取り、景色についてはお墨付きである。「京王×高尾」というキャッチフレーズの宣伝の効果もあり（先に書いてある方が攻めのような）、観光客もとても多かった。そんな、タイヤメーカーにも観光客にもお気に入りの高尾山をどうぞ楽しみにしておいていただきたい。

さて、そろそろ今回の下見の報告をしなくてはまずいのでやります。

下見当日は一日中晴れで、とてもいい天気だった。前々日の雪が嘘みたいで、一日中とても暖かくて山の上でも暑いぐらいだった。出発する前、高尾山だからトレッキングシューズじゃなくても良いかと思ったが、他に履いていく靴も無く、僕はトレッキングシューズで行った。他の人も、トレッキングシューズか運動靴だった。しかし、一人だけスニーカーで来た猛者がいた。今年から新任、哲学で有名な社会科の〇〇先生だ。しかし登る前までは、そーなのかー、と思ったぐらいで、別に高尾山だし問題無いかと思っていた。しかし、高尾山の頂上を越えたあたりから、急に地面が泥に変わり、非常に滑りやすくなっていた。その日の前々日に雪が降り、おかげで桜の花と雪景色という珍しい光景を見ることができたのだが（←のんき）、地面が滑りやすくなるという副作用も起きてしまったのだ。トレッキングシューズをはいている僕でさえ滑りやすかったので（事実二回転んだ）、スニーカーで来てしまった〇〇先生が転ばないわけがない。下山するまでに転んだ回数は、多分 10 回なんてものでは無かったと思う。上着やリュックサックはもちろん、メガネや頭まで泥だらけになってしまった〇〇先生は、見るも無惨な状態で、とても一人で電車に乗れるような姿ではなか

った。他の先生や生徒にしきりに大丈夫ですかと笑われつつ尋ねられるも、「……大丈夫です……」と言うしかなく、「これで飯ごうとかぶら下げてたらまさしく敗残兵



だよ (笑)」ともっともなこと言われ、「もうどうにでもなれですよ……」ともはや開き直っていた。正直言ってかわいそうだったが、一緒に歩いていているときはとても楽しかった。(別に転んでもがいている姿をみて喜んでた訳じゃないですよ?) 帰りの電車の中では、周りの目を気にしながらも、いろいろと話しかけてくれ、とても良い先生だと思った。是非、今度〇〇先生を見かけたら、話しかけて

みると良いと思う。

このような紆余曲折があったが、高尾山は日本の山独特の雰囲気漂っている感じがした。古くから日本には八百万の神々がいると言い伝えられてきたが、そんなアニミズムを感じられた。ふつうに河童や鴉天狗とかが登場してもおかしくない感じだった。また、相模湖駅に到着する前に与瀬神社という神社の前を通るが、その神社もすぐ立派で高尾山とぴったりの印象を受けた。高尾山は、なんと聖武天皇の時代にあの行基が開いたという説もあるので、(現在は当時行基が76歳だったということもあり疑問視されているが、とにかく古いということを分かって欲しい) 是非歴史ある神さびた高尾山を、存分に堪能してきて欲しいと思う。

最後に、この遠足で関わってくれた、先生方また、遠足委員の方々に、深く感謝します。



楽しい楽しい、下見だったよね？